

1面から続く



参加者：中村会長、井篋事務局長、岩崎広報委員、結城施設委員、國司スポクラ21事務局長（5名）

参加者たちの声

（記事は、参加者氏名の五十音順で掲載）



11月22日に加東市の県立嬉野台生涯教育センターで行われた「地域コミュニティ・アワード2009」に参加した。現地

に到着後、早速ブースの設置作業を手伝ったが、いつ作成したのかカラーの色取り鮮やかなイラストと大版の写真を組み合わせた展示パネルの素晴らしさ、実に精緻で素敵な見映えのブースの仕上がりを見て、中村会長の熱意と技術の高さに驚き、敬服した。私達のブースは、並み居る交流コーナー諸団体の中でも、一番のブースではないかと自画自讃の思いであった。

当日は寒い日で、屋内に設置されたブースの私達も冷房完備？の状態だ、屋外と同情した。しかし、各地域がそれぞれ趣向を凝らして自分たちの活動状況の発表や、地産品、手作りのうまい物、その他弁当、パンなどの販売を賑やかに楽しんで行い、地域間の交流に努力していたのは頗る素晴らしい光景であった。

午後には井戸知事も来場されて参加団体への顕彰式が行われ、参加67団体の中から私達も含めて15団体に奨励賞が授与された。そのあとブースで知事を囲んで記念写真を撮ることができ、良い思い出となった。心配された雨もイベントが終

了真際の午後3時頃から降り始め、当日の予定行事に影響が少なかったのは幸いだったと思う。午後4時頃、雨の中を達成感と些かの疲労を感じながら、帰りのバスに乗り込んだ。（井篋）



北県民局からバスで出発し約40分、昼から雨？という寒い日でしたが、会場にはすでに約60ものブースが設置され賑わっています。ゆずり葉のブ

ースの展示を早々に済ませ、目指すは野菜売り場。西脇の冬野菜をGETしました。「きくいも」という、形は土しように、味はほんのりゴボウっぽい。不思議な芋のかき揚げを試食しながら、サブ寿司もGET。家族へのお土産も完璧です！中庭では天元太鼓がドンドコドン。外では鈴鹿を疾走したという西脇工業高校のソーラーカーが走っています。

全県規模の活動発表ということもあり、やはり迫力が凄かったです。人が途切れることがなく、ベビーカーを押した家族連れもたくさん来場していました。（岩崎）



兵庫県の施策である「県民交流広場事業」に応募し、逆瀬台小学校区が事業実施地区として指定を受けたのは、平成18年度のことでした。当時、逆瀬台小学校区まちづくり協議会「ゆずり葉コミュニティ」の健康福祉部長を務め、かつ事務局長格として実務を担当していた私は、事業目的と積算予算の無いまま、理念・概念と概算予算のみで応募書類を作成し、薄氷を踏む思いでヒアリングに臨み、幸いにも他に事業応募地区が少なかった所為もあって、合格・指定を受けることができました。

これによって平成19年度には、光ガ丘自治会館・青葉台逆瀬台自治会館の改修・整備が完成し、かつ宝梅園団地集会所や旧東逆瀬台ブロックのビジュアル・オーディオ・システム機器の整備が進みま

した。また平成20・21年度には、これらのハードウェアを活用した多彩な催しが企画・実施されて、いわば前進的なソフトウェアの充実が見られました。このようにハードとソフトの両面のバランスのとれた事業こそ、県民交流広場事業施策

1面から続く

の本来の目的であると評価されたのでしようか、この度初めて開催される全県的な県民交流広場交流大会『地域コミュニティ・アワード2009』へ、宝塚市域から唯一選ばれて参加することになりました。現在、引き続き本事業の連絡責任者を務めている私も、日曜日のハイキングと卓球のスケジュールを割愛して阪神北県民局が借り上げたマイクロバスに分乗し、会場の兵庫県嬉野台生涯教育センターへ向かいました。私事になりますが、40年前この嬉野や東条湖などで仕事をしていたことがあり、中国自動車道もまだ開通していない、やっとう地買収が完了して路面造成に着手したばかりの当時、この社町嬉野は一面の畑と雑木林ばかりでしたが、久しぶりに現地に着いて見てもうびつくり、まさに浦島太郎の心境でした。

当日は、『北はりま絆プロジェクト交流広場大会』および『うれしの台で学ぶ世代間交流フェスタ』との共催であったためか、各参加事業の当事者だけでなく、いへんな人数で、各ブースや各イベントを覗いてみるだけでも人混みの中を掻き分けながら、やっとの思いでスタンプリリーのゴム印を貰って廻りました（抽選会の結果は残念ながら最下位の7等賞）。（國司）



私たちはコミュニティ活動は、常日頃から現在何をやり、これから何をやるのかと言う情報共有が大切。その実践をインターネット活用による広報活動で対外において評価されている。事務局と活動局の組織力強化を推進し、地域力の醸成を図って行きます。（中村）



屋内展示各ブースでは設置が進み、当会も遅まきながらカラー刷りのパネルとマップを掲出。参加者達の意欲的な交流に

どきまぎし、いずれの地域も高齢化していくことに策を考え、実行の難しさを話されることも多かった。屋外の展示ブースでは地産の野菜・野菜等の販売もあり、「糖尿病や肥満、高中性脂肪に有効性がある」ということが目に留まり「きくいも」を購入。他の食材とともに夕食を賑わし一日を終えた。（結城）

1面から続く

政府の事業仕分け見学記 ぜび宝塚市でも事業仕分けを！

当日は、環境省・外務省・文部科学省に関わる議題の中で、「在外公館の運営」などを傍聴。漠然とした公館設置基準、外国への赴任時に加算される手当の数々とその金額、必要の有無の間われる福利厚生施設、重複する業務を担う他機関との合理性のなさ等に対して、鋭い質問が。JICAも同様でしたが、一般企業とかけ離れた経費感覚には驚かされます。賛否両論のある「事業仕分け」ですが、これまで公になることなく、脈々と受け継がれてきた天下りにぶら下がる緩慢な事業運営、厳しさに欠けた予算計画等を公開で洗い出すという作業は、やはり一定の意味を持つ試みであったと思います。

いえ、これは国だけでなく、様々な場面でも求められるのかもしれない。家庭内然り。昨今、ボーナスの削減、給与の引き下げが言われていますが、家計簿でムダを洗い出す事業仕分けも緊急課題かも！

そして何より、今私達の暮らす宝塚市でも同様でしょう。兵庫県下29市中、28位という深刻な経常収支比率を見ると、歳出の見直しが必要と思わずにいられません。全国的に経済状況が悪化する中、本当に必要なことを残し、優先順位をつけて、健全化を目指す時期に来ているといえるでしょう。市側にも事業仕分けを是非お願いしたいものです。（北川）

「エコバスツアー」に参加して

限りある資源の大切さを痛感

宝塚市環境衛生推進協議会により、11月26日、エコバスツアーが企画され、第一地区及び第二地区の自治会連合会のご厚意で、逆瀬台小学校区から参加させて頂きました。



市役所からマイクロバス2台に分乗し、加東市にあるパナソニックのエコテクノロジーセンターへ。紅葉の進む中国自動車道を1時間ばかり走ると、田園風景の中、洗練された建物が現れました。この施設では、2001年に本格施行された「家電リサイクル法」に基づいて、使用済み家電の「再資源化」に取り組み、同時にその技術の更なる研究開発を行っているとのこと。

また、一般消費者をはじめ、小学生から海外の技術者まで、幅広い層を対象にリサイクル技術と、その重要性を訴える情報発信地の役割も担う、国内でも数少ない施設だそうす。



工場では、対象となるテレビ、洗濯乾燥機、エアコン、冷蔵庫の4種の家電がそれぞれラインに乗って、解体、粉碎、分別、搬出と効率よく進む工程を、工場の2階部に渡された

通路から見学しました。パーツに分けられた家電は、素材ごとに粉碎され、新しく家電に利用されるものあり、建材や衣料素材として生まれ変わってゆくものあり、と様々ですが、その再利用率は法定リサイクル率の50〜70%（家電の種類による）を大きく上回るそうです。

また、作業過程の随所に組み込まれる技術も目を見張るもので、カッターは裁断や粉碎にも振動と騒音を最小限に抑え、粉碎された小片も比重・磁力などを利用して、人手を介さずにプラスチック・鉄・その他金属と分けられてゆく。見学路では、実際にその仕組みを手にとつて体験できます。これも「リサイクルのテーマパーク」を謳うこの施設ならではの特微でしょう。一時間半の見学もあっという間でした。

リサイクル技術が進み、使用済み家電もそのすべてが何かに生かされる。それは素晴らしいことです。けれど、解体されてゆく家電の山を目にし、その前に私達にできることは、今ある製品を大切に、少しでも長く使うことではないか、とも考えさせられました。技術と意識の両面に環境を考えてゆきたいものです。